

科目名	パソコン実習Ⅳ	学科名	ファーム農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	4年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	柿崎 渉	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	各種編集ソフトに概ね共通する操作方法を学習し、ソフトの種類に捉われない基本的な動画編集スキルを習得する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	動画編集基本の理解 料理等の作品を動画で紹介できるようになる		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	センスがUPする♪ 動画編集の教科書(BNN)		
成績評価の方法 ・基準	日常の成績、出席率、実習、課題提出等の結果を合わせて総合的に評価する。		
履修に当たって の留意点	日頃から編集者の意図を考えて動画視聴を行う事		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動画編集とは	目的、魅力
第2回目	動画編集とは	事例紹介
第3回目	動画編集とは	動画編集の流れ
第4回目	カットつなぎ	連続性・リズム
第5回目	カットつなぎ	フレーミング・素材の作成
第6回目	カットつなぎ	モンタージュ理論
第7回目	カットつなぎ	代表的なカット
第8回目	カットつなぎ	人を惹きつけるカットつなぎ
第9回目	カットつなぎ	撮影について
第10回目	構図	目的に応じた構図
第11回目	音	音をもたらす効果
第12回目	色	色の基本編集
第13回目	文字	シーンに合ったフォントの選び方
第14回目	総合演習	総合演習①
第15回目	総合演習	総合演習②

科目名	農業情勢	学科名	ファーム農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	4年次 後期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	石関 和泰	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	日本農業の抱える問題、スマート農業の取組、環境問題や農産物貿易等、世界の農業の動きについて、総合的に学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	日本農業及び世界の農業を取り巻く問題とその対策について理解し、自分なりの考え方を持つことができる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜プリント配布		
成績評価の方法 ・基準	学期末試験を実施し、出席率・受講態度・成果物等を総合的に判断し評価簿る。		
履修に当たって の留意点	時事問題等、難しく感じる内容も出てくるため、何故そのような問題が生じたかまで遡りながら説明し、理解を促す。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	日本農業	日本農業の概要
第2回目		自給率
第3回目	農業関連組織	農業団体の種類と役割
第4回目	農業の担い手	農業者・農業法人
第5回目	農産物貿易	世界の農産物と国際価格
第6回目		日本の農産物貿易
第7回目	スマート農業	スマート農業事例①
第8回目		スマート農業事例②
第9回目	農業政策	みどりの食糧戦略
第10回目		有機JAS認証
第11回目		農村の振興
第12回目		医福食農連携
第13回目	環境問題	ヨーロッパの環境問題
第14回目	食料安保	食料安全保障問題
第15回目		食品ロス

科目名	環境と農業	学科名	ファーム農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	4年次 前期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	石関 和泰	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	農業は環境と密接な関係にあり、農業が環境を壊す場合もあれば、環境を保護する場合もある。そこで、環境について動植物や化学的分析からの評価を知り、環境と農業の調和について理解を深めると共に、地球規模で起きている環境問題についても基礎的な知見を持てるようにする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	農業と環境の関係について把握し、農地の扱いに責任を持つ重要性を理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	環境と農業及び適宜プリント配布		
成績評価の方法 ・基準	学期末試験を実施し、出席率・受講態度・単元別テスト等を総合的に判断し評価簿る。		
履修に当たって の留意点	専門用語や理解しにくい内容の場合は特に学生の理解度を確認しながら丁寧に説明を行う。また、必要に応じ、画像を用いて理解を深められるようにする。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	私たちの暮らしと環境	暮らしと環境・農業、生態系の特徴
第2回目	地域環境の調査と発見	地域環境の特徴
第3回目		環境調査(地形・地質、気象、土地利用)
第4回目		環境調査(自然度・植生、樹木、動植物)
第5回目		環境調査(水質、pH、EC)
第6回目		環境調査(土壌)
第7回目		環境調査(大気)
第8回目	農業の営みと環境	農業生産と環境
第9回目		森林・林業と環境
第10回目	環境の保全と創造	環境創造の方法
第11回目		環境創造プロジェクト
第12回目	環境問題と人間生活	地球規模の環境問題
第13回目	ヨーロッパ農業と環境	ヨーロッパ農業における環境問題
第14回目	SDGs	SDGsの取組
第15回目	まとめ	

科目名	リスクマネジメント	学科名	ファーム農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	4年次 後期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	石関 和泰	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	リスクマネジメントについて基本的な考え方を学び、食品工場等に潜む危険性をイラスト解説でより深く理解する。また、万が一リスクが発生した場合でも、損害を最小限に抑えるために必要となる対処方法についても理解する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	製造現場の中に潜んでいる様々なリスクの認識と、万が一損害が生じてしまった場合の対処方法について理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	危険な製造現場のイラスト事例集、食品工場の基本とリスク管理―他社の失敗から学び想定外をなくす		
成績評価の方法 ・基準	学期末試験を実施し、出席率・受講態度・成果物等を総合的に判断し評価する。		
履修に当たって の留意点	リスクが本人だけでなく、被害者、そして会社全体に及ぶ重大なものであることを認識する。そして、絶対に起こさない気持ちを持ち、細かなところまで気を配るようにする。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	リスクとは	リスクの概要、主なリスク
第2回目	リスクの事例 機械	機械に潜むリスク①
第3回目		機械に潜むリスク②
第4回目		機械に潜むリスク③
第5回目	リスクの事例 荷	運搬・荷扱いに潜むリスク①
第6回目		運搬・荷扱いに潜むリスク②
第7回目		運搬・荷扱いに潜むリスク③
第8回目	リスクの事例 衛生	衛生に関するリスク①
第9回目		衛生に関するリスク②
第10回目		衛生に関するリスク③
第11回目		衛生に関するリスク④
第12回目	事例から学ぶ	事故から学ぶ教訓
第13回目		顧客に対する教訓
第14回目		従業員に対する教訓
第15回目		地域に対する教訓

科目名	データ活用と農業経営Ⅱ	学科名	ファーム農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	4年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携	○:該当
担当教員	石関 和泰	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	マーケティングやデータ分析の基礎スキルなどを学習し、データ分析ツールを利用して、データマーケティング実習を行い、農業経営への活かし方を学ぶ		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	農業分野でデータを活用して活躍できるデータマーケティング人材となれるよう、基礎的なマーケティングスキルやビッグデータ分析スキルを習得する		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	既存及び開発教材		
成績評価の方法 ・基準	小テスト・テスト、実習態度、習熟度、学習者のグループ評価等を総合的に判断し評価する。		
履修に当たって の留意点	データを活用した農業の将来像が描けるように、データを共有・活用できるスキルを身に付ける		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	農業・農産物の価値	農業や農産物が持つ価値の考察
第2回目	消費者の求める価値	価格以上に消費者が求めるもの
第3回目	生産者と消費者の融合	取り組み事例から学ぶマーケティングのポイント
第4回目	ブランディング	ブランド形成に求められるもの
第5回目	価値を伝える手法	価値の効果的な宣伝・販売方法
第6回目	顧客との関係構築	顧客満足度向上と顧客離れ防止
第7回目	立地と流通	立地条件と流通機能の役割
第8回目	地域との連携	地域ネットワーク構築による販売内容の多角化
第9回目	マーケティング演習1	農作物・こだわり・顧客との信頼構築演習
第10回目	マーケティング演習2	直売所における戦略構築演習
第11回目	各種ツールの活用1	地域経済分析
第12回目	各種ツールの活用2	購買データ分析1
第13回目	各種ツールの活用3	購買データ分析2
第14回目	データ分析演習1	データの見える化(Excelによるグラフ作成演習)
第15回目	データ分析演習2	各種ツールを用いた分析演習

科目名	栄養と健康論	学科名	ファーム農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	4年次 前期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	岡庭 千代乃	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	人体の構成と機能を学び、私たちが摂取した食物の消化・吸収などの仕組みも理解する。さらに健康を維持するためにはどんな食生活を送れば良いのかを実践的に学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	人体の構成等を理解し何をどれだけ摂取をしたら健康を維持できるかの見識を得る。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	栄養の教科書 新星出版 自作プリント等		
成績評価の方法 ・基準	期末試験と確認テスト、授業出席率、受講態度課題提出等総合的評価 出席率が70%を下回る場合は不可。		
履修に当たって の留意点	人体の構成や栄養素の働き・特徴を理解し、自らの健康管理にも役立てる。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	導入	栄養と栄養素
第2回目	栄養とは	栄養と体・栄養素と食品群
第3回目	体のしくみ	人体の構成と機能の維持 化器系・環境器系の構造と働き
第4回目	"	呼吸器系・泌尿器系の構造と働き 骨とカルシウム
第5回目	"	水と液体 エネルギー代謝 基礎代謝
第6回目	"	エネルギー必要量 運動と疲労
第7回目	"	睡眠と覚醒、食欲と食行動、体内時計
第8回目	"	なにをどれだけ、いつ食べる
第9回目	"	血糖値と糖質、脂肪とコレステロール プリン代謝と尿酸
第10回目	"	肥満、メタボリック症候群、免疫と腸内環境
第11回目	"	食物アレルギー、食品と医薬品の相互作用
第12回目	"	健康診断と検査、健康診断で行われる検査項目、 各器官の構造
第13回目	食品・食事に関する 目安	食品成分表
第14回目	"	食事摂取基準、食生活指針
第15回目	まとめ	まとめ

科目名	フードテック	学科名	ファーム農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	4年次 後期
授業時数	30時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	石関 和泰	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	フードテックについて、概要、社会的背景とその課題、代替肉や昆虫食等の主な食品、鮮度保持やフードロボット等流通・加工に関わる先端技術、政策と今後の方向性を理解する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	フードテックについて正しく理解し、フードテック推進していくために必要な知識を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	フードテック概論入門		
成績評価の方法 ・基準	学期末試験を実施し、出席率・受講態度・単元別テスト等を総合的に判断し評価する。		
履修に当たって の留意点	専門用語や理解しにくい内容の場合は特に学生の理解度を確認しながら丁寧に説明を行う。また、必要に応じ、画像を用いて理解を深められるようにする。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	フードテックとは	フードテックの内容、分類、位置づけ、マーケット
第2回目	フードテックと社会	農林水産業とSDGs、気候変動、温室効果ガス
第3回目		健康ブームと栄養、高齢者とタンパク質
第4回目	代替肉	代替肉の分類と特徴、原料と製造技術
第5回目		代替肉の評価と消費者ニーズ
第6回目		代替肉の商品化と食料供給
第7回目	藻類食品	藻類食品の概要とマーケット
第8回目	昆虫食	昆虫食の概要、昆虫食が求められる背景
第9回目		昆虫食の普及・定着に向けた課題
第10回目	植物工場	植物工場の分類と概要、AIの活用
第11回目	スマート育種	スマート育種の定義と分類、ゲノム編集食品
第12回目	陸上養殖	陸上養殖と先端技術
第13回目	フードテックと流通・加工	ロボット、フードプリンタ、鮮度保持
第14回目	フードテックを取り巻く政策	主な政策とその内容
第15回目	まとめ	

科目名	フードデザインⅢ	学科名	ファーム農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	4年次 前期・後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	○:該当
担当教員	岡庭 千代乃	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	成人が健康を維持することを目的とした食事のとり方とライフステージ別、病気別の食事の組み立て方・管理の仕方を理解し学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	健康な成人の食事・ライフステージ別・病気別等、様々な食事摂取状況を理解し、健康を維持できる知識・技術を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	栄養の教科書 新星出版 その他適宜指示		
成績評価の方法 ・基準	期末試験と確認テスト、授業出席率、受講態度課題提出等総合的評価 出席率が70%を下回る場合は不可。		
履修に当たって の留意点	毎日の生活の中でも、食事に興味をもち授業に取り組む。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	食事の組み立て	食環境・食事の型・食品の分類
第3回目～第4回目	〃	味付けの基本・食事パターンと健康・栄養情報
第5回目～第6回目	栄養素について	たんぱく質・脂質(飽和脂肪酸・コレステロール)
第7回目～第8回目	〃	炭水化物・食物繊維・食塩
第9回目～第10回目	食事摂取	食事の仕方
第11回目～第12回目	〃	〃
第13回目～第14回目	体重調整	目標体重とエネルギー、太る習慣
第15回目～第16回目	〃	たんぱく質と加工食品
第17回目～第18回目	〃	お酒・菓子類・加糖飲料
第19回目～第20回目	ライフステージ別の食事	妊娠期・授乳期、乳幼児期、学童期・思春期
第21回目～第22回目	〃	青年期・壮年期、中年期、高齢期
第23回目～第24回目	病気別の食事	糖尿病・高血糖、脂質異常症、高血圧
第25回目～第26回目	〃	高尿酸血症、痛風、脂肪肝、胃腸の病気
第27回目～第28回目	〃	貧血、骨粗しょう症、がん
第29回目～第30回目	まとめ	まとめ

科目名	卒業研究	学科名	ファーム農業経営学科
分類	必修	配当年次・学期	4年次 前期・後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	○:該当
担当教員	岡庭 千代乃	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	自主的な計画立案、体系的な実習で創造的・実践的態度を身につける。また、POWERPOINTを用いて研究成果を発表する為のプレゼンテーションスキル・能力も身につける。研究内容をまとめていく中で、実践的に学習し習得する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	卒業研究発表資料・卒業研究論文		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	適宜指示する。		
成績評価の方法 ・基準	授業出席率、受講態度及び課題提出等を総合的に判断し評価する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不可とする。		
履修に当たって の留意点	研究は自ら責任を持って行うこと。また、主体的な活動がメインとなる。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	オリエンテーション	研究課題の設定
第3回目～第4回目	課題研究	研究①
第5回目～第6回目	〃	研究②
第7回目～第8回目	〃	研究③
第9回目～第10回目	文献調査	参考文献資料作成①
第11回目～第12回目	〃	参考文献資料作成②
第13回目～第14回目	まとめ	卒論まとめ①
第15回目～第16回目	〃	卒論まとめ②
第17回目～第18回目	〃	卒論まとめ③
第19回目～第20回目	プレゼンテーション 手法	POWERPOINTを用いたプレゼンテーション資料の作成手法を学ぶ
第21回目～第22回目	POWERPOINT作成	プレゼン資料の作成①
第23回目～第24回目	〃	プレゼン資料の作成②
第25回目～第26回目	〃	プレゼン資料の作成③
第27回目～第28回目	まとめ	研究課題のまとめ①
第29回目～第30回目	〃	研究課題のまとめ②